課題名　在日留学生におけるアカデミックライティングへの支援に関する検討
―大学院留学生への半構造化インタビュー調査から―

研究代表者名　閏　琬 新（先端教育研究実践センター）
研究組織等　中 島　平（教育情報アセスメント講座）

研究目的と研究方法

（１）研究目的：本研究の目的は大学院留学生における授業に関連したアカデミックライティング活動の体験の調査を通じて、ライティングプロセスに関わる要素を明らかにした上で留学生のアカデミックライティング活動へ新しい支援視点を生み出すことである。

（２）研究方法：先行研究から得られた知見と研究目的を踏まえて、「留学する前の学習履歴」「経験したアカデミックライティングの類型」「アカデミックライティングへの理解」「授業体験」「アカデミックライティングのプロセス」「アカデミックライティングに関するフィードバックと評価」の 6 カテゴリーに関する調査質問が作成された。国立大学 A 大学に在籍する文系大学院留学生 10 名を対象とした半構造化インタビュー調査を実施した。

研究経過

（１）2022 年 7 月～2022 年 8 月：研究倫理審査委員会からの承認（調査同意書の作成）
（２）2022 年 9 月～2022 年 11 月：文献レビューと質問項目の作成
（３）2022 年 12 月：インタビュー調査の実施
（４）2023 年 1 月：インタビュー内容のテープ起こしとデータ分析
（５）2023 年 2 月：原稿の完成

研究成果

本調査では、留学生は体験したアカデミックライティング活動への評価及びアカデミックライティングの学習成果に対して、個人差とアカデミックライティング類型の差が見られる。つまり、同じ対象者でもアカデミックライティング活動への評価と学習成果が授業体験によって変化する一方で、同じ授業のアカデミックライティングに対して、対象者によってアカデミックライティング活動への評価と学習成果も変化した。その差が生じる原因について、主に留学生の個人要因と外部要因という 2 点が取り上げられる。留学生の個人要因として、授業を受講するモチベーション、動機づけ、日本語能力、既存知識、アカ

デミックライティングへの理解、思考力、留学する前のライティング経験とライティングスキルなどが挙げられる。外部要因として、授業での教授法、教員の使用言語（英語または日本語）、アカデミックライティングの類型と要求、ライティングスキルに関する指導、日本語作文に関する指導、アカデミックライティングへのフィードバック及び成績評価が挙げられる。

また、本調査の結果では、留学生のアカデミックライティングプロセスとアカデミックライティング活動の学習成果は留学生の個人要因と外部要因の相互作用の結果であることがわかった。さらに本調査によると、①「感想文」のようなアカデミックライティングに対して留学生が表面的なアプローチを使う傾向がある；②留学生のアカデミックライティング活動において、日本語能力、アカデミックライティングへの理解、思考力（thinking skills）と日本語作文に関する指導に関してより効果的な支援を求めている；③教員のフィードバックと成績評価についてより工夫が必要とされるという３つの支援視点が見出された。

今後の課題

本研究では中国出身の文系大学院留学生を対象として調査を行なった。今後は、より豊富な知見を生み出すために、理系大学院留学生、学部留学生及び他の出身国の留学生への調査も不可欠だと考えられる。

謝辞

(1) インタビュー調査にご協力いただいた国立大学 A 大学に在籍する 10 名の大学院留学生に感謝申し上げる。

(2) 本稿は「東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センター2022 年度プロジェクト研究助成」を受けて実施した研究成果の一部である。研究を支援していただいた東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センターに感謝申し上げる。